

TNTmips 2012 の新機能

ボタン1つで2D表示をフルカラー 3D 立体表示に変換

- パッシブ方式または"メガネ無し(裸眼)"の3Dカラーモニターや大型画面の3Dテレビを使った立体表示。
- まだ3Dモニターをお持ちでないなら、任意のモニターでアナグリフ立体表示モードが使えます。
- ローカルの地理データやWMS、ARC、マイクロイメージのWebサイト等のインターネット上の地理データを含む2D表示を変換可能です。
- 変換にあたって microimages.com サイトにある最適な解像度の標高データを自動的に使います。
 - 南緯 83 度から北緯 83 度の範囲の全球 30m 解像度 DEM
 - アメリカ 48 州であれば 10m 解像度 (一部の州では 3m 解像度) DEM
 - カナダは 20m 解像度 DEM
- これらの標高データを自動的にリサンプルしてあなたの表示画面の座標参照系や解像度に合わせます。
- これらの DEM データは microimages.com サイトよりダウンロードすることもできます。
- 自分のハードディスクやネット上の高解像度 DEM データも選択できます (例えば LIDAR から作成した DEM)。

カラー 3D 立体表示した地表面上で地物を描画・編集することができます

- 描画と編集ツールは直接 3D 地表面上で使えます。
- シェイプ、ベクタ、CAD レイヤとして要素を作成・編集できます。
- 標高レイヤから補間された要素の Z 座標を変換に使用できます。

カスタムマッシュアップを使って Google Earth や Google マップで自分の地理データレイヤを表示できます

- マッシュアップはローカルで見たり、公開してインターネットで表示することができます。
- 任意のサイズの画像やモザイクを作成して重ねることができます。
- 任意のサイズのベクタの地物レイヤを作成して重ねることができます。
- オーバレイはタイルセット構造であり、解像度や地理的範囲は自由です。
- Google Earth で自分の地形データ (DEM) を利用できます。

図形データ (ベクタタイルセット) の作成、管理、公開

- Google マップ、Google Earth、Open Layer での表示用に地理データをエクスポートまたはレンダリング。
- 自分のベクタ地理データを使って作成できます。
- 単独の KML ファイルやより広範囲の KML タイルセット、SVG タイルセットへ出力、レンダリングできます。
- ローカルドライブにあるタイルセットを表示したり、Web サイトへコピーして表示することが可能です。
- ローカルのベクタやラスタタイルセットを組み合わせ、インターネット用のマッシュアップにすることも可能。
- KML ファイルやラスタタイルセットを追加して任意のインターネット Web サイトで公開できます。

LIDAR ツール

- 広い範囲をカバーする LAS タイルセットの作成、表示。
- 大きな LAS データセットの管理や変更 (座標参照系の変更等)。

表示中の画面で注釈を付けたり地物を保存するツールに簡単にアクセスできます

- 表示画面上部のツールバーよりツールアイコンを直接選択できます。
- 注釈はスケッチ (CAD) オブジェクトとして保存。
- スケッチオブジェクトの再編集。

グラフィカルなフローダイアグラムを使った SML スクリプトの作成

- キャンバスに関数やクラスを追加、それらを連結して処理フローを組み立てます。
- 入出力用のプロンプト画面の追加。
- 処理フローの保存、再読み込み。

